

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/02/16 ～2019/02/28)

1. 勉学の状況

授業は3月4日から始まるため、授業についても後に少し書きますが、まずは私が派遣留学プログラムに参加するまでに行った勉強についてより詳しく書いていこうと思います。

私が留学を本格的に意識し始めたのは1年生の後期からでした。その頃にIELTS対策講座を履修し始め、翌年の春休みにある試験での目標のスコアの取得を目指して勉強をしていました。受験する語学試験の種類で、当初はTOEFLにするかIELTSにするかで迷っていたのですが、TOEFLは4技能全てのテストがパソコンで行われると聞き、その形式が苦手だと思った私は、今まで経験してきた高校受験や大学受験の形式によく似た筆記、面接の形式をとるIELTSを選択しました。恐らくどちらの形式にするかで最初に迷われる方がいると思うのですが、自分に合ったものを選ぶのが一番だと思います。また、これはどの英語の語学試験にも共通して言えることだと思うのですが、English Houseや附属図書館など学内の施設を有効活用するのが目標のスコアを獲得するための一番の近道だと思います。これらの施設には様々な問題集や参考書が用意されていますし、特にEnglish Houseでは予約をすると先生と1to1で学習に関する相談をすることができ、Writingの採点など自分だけではどうしてもできないことまで助けてもらえるので、とてもオススメです。

さて、そのようにして勉強をして3月に試験を受け、目標のスコアを達成することができたため、2年の春に派遣留学プログラムの申請を行いました。私が応募したのは春派遣の留学だったので、プログラムはそのおよそ1年後に渡航するものになります。ここでオーストラリアのモナシュ大学を留学先に決めるのですが、その理由としては、かねてより勉強していた英語を自分の研究に役立てたかったことや、千葉大学では受けられない自分の興味分野に沿った授業がその大学で履修できることなどがありました。申請後に面接を行い、無事派遣留学生としての推薦が決定しました。留学が決まった後は更に忙しく、派遣先の大学や寮に提出する書類の作成、ビザの申請等に終始追われていました。私の大学の場合、その時点で前期に受けたい授業の候補も挙げなければならなかったのが大変でしたが、派遣留学先から千葉大学に留学しに来ていた学生の友達や自分と同じ学部でかつてモナシュ大学に派遣留学をしていた先輩等に相談に乗っていただき、留学先での生活や授業での様子を前もって聞いておくことができたので本当に助かりました。あとは留学の準備と並行して千葉大学での授業や課題をこなし、出発日まで過ごしました。

ここからは到着後のオリエンテーションや現地の友達から聞いた話に基づいて、モナシュ大学の授業形式について簡単に説明したいと思います。モナシュ大学の学生たちは学期ごとに授業を3~4つ履修しなければならないのですが、私の所属するArtsという学部では、授業1つ毎にLectureとTutorialという2種類の授業形式の時間が週に1時間ずつあります。Lectureは講義

形式で主に先生の話聞く時間、Tutorial はディスカッション形式で毎回出されるテーマに沿って他の生徒達と話し合いをする時間だそうです。非英語圏からの留学生にとって特に Tutorial の時間は、英語力が伴わないことからどうしても話についていけなかったり、場合によっては全く話に入れないことから空気のように扱われてしまったりするため、とても辛い時間になることもあるという話を聞き、今から既にとても怖いです。Engineering など他の学部だと Tutorial の形式が異なったり、これら 2 種類に加えて実験の時間があったりするようです。課題の提出には千葉大学同様、主に Moodle を使用するそうで、そこはあまり心配する必要はないかなと思いました。

ここまで駆け足で留学の準備や授業について書いてきましたが、書き忘れたことがあった場合には次の月以降の報告書に書いていこうと思います。まだ分からないことだらけですが、少しずつ慣れていくことができると考えています。



遠足で行った Healesville Sanctuary で撮影したコアラ

2. 生活の状況

日本の成田空港を出発し、丸 1 日ほどかけてメルボルンに到着することができました。オーストラリアは日本と季節が真逆で、2 月は真夏です。寒い日本でかなり着込んでから飛行機に乗り込みましたが、現地に到着してからとても後悔しました。空港から大学までは大学が手配した無料の送迎車のサービスを利用して移動することができたので、特に困ったことはありませんでした。自分一人で重い荷物を運びながら電車やバスなどの公共の交通機関で移動するのはとても大変なので、どの大学に留学するにしてもこのようなサービスがある場合は積極的に利用した方が良いと思います。私が空港に到着した際、モナシュ大学以外にもメルボルン近郊の様々な大学が手配した送迎車が来ているのが確認できたので、そのようなサービスを行なっている大学は多いのではないかと思います。

私は下宿先にキャンパス内の寮を選んだのですが、今はそのことをひどく後悔しています。ここからはほとんど愚痴のような内容になってしまい、お見苦しい内容で申し訳ないのですが、これから留学を考えている方に向けてリアルな声を聞いて（読んで？）いただきたいと思い、あえてここに書かせていただくことにします。入寮したその日から学期が始まるまで、寮ではパーティやミーティングが開かれているのですが、日本にいる時から不特定多数の人と話すのが苦手な私にとってははっきり言って苦痛でしかありません。逆に考えると、元々パーティーが好きな方か

らすればとても嬉しいことなのだと思います。最初の方は頑張って参加していましたが、今はもうほとんど行かなくなりました。パーティによってはお酒も入り、夜遅くまで寮のすぐ外や寮の中で騒ぐ人もいるので、困っています。寮に住んでいる人のほとんどは親切な人ばかりで、一人でご飯を食べていたりすると声をかけてくれるのですが、自分としては一人で静かにしたいので放っておいてほしいなと思っています。でもそう言うと自分が悪いことをしたみたいに思えて嫌なので、結局何も言わずに部屋にこもるか、他の場所に逃げてしまいます。一人で落ち着くことのできるスペースが少ないので、毎日疲れがひどく、体調も崩しがちです。腹痛で朝、起き上がることができない時もありました。大学では人付き合いを頑張ろうと思えるのですが、その疲れを癒すための寮に居る時も人付き合いを頑張らなければならないと思うと辛いです。人と話せばそれだけ英語も上手になるし、友達も増えて楽しいのかもしれませんが、とにかく精神的に今は無理だと感じています。また寮の設備も、トイレからシャワー、台所まで色々なものが寮全体で共有されているのですが、誰かが汚く使ってそのままということが毎日あるのでそこでもストレスが溜まります。せめて自分が使うときは片付けて綺麗にしておくのですが、次使うときに見るとまた汚くなっています。そして台所で料理をしても、180人以上いる寮全体で小さな台所一室を共有しているために人口密度が高く、誰がどこの台を使っているのかも分からなくなるほどで、私の調理器具を隣の人が勝手に使っていることもあります。そういう時はイライラして強い口調で注意してしまうこともあり、言ったら分かってくれるのですが、私ばかりが怒って疲れているみたいでそれも辛いです。また連日 35 度以上の猛暑になるにも関わらず寮にはエアコンも扇風機も無く、毎日暑すぎてよく眠ることができません。他の学生達の話を知っていると家賃が同じくらいで今住んでいる寮よりもシェアハウスの方が設備の面からも快適そうなので、次の学期からはどこか別のシェアハウスに入ろうかと考えています。ただ設備に関しては、大学内に複数ある寮によって異なるようで、私の住んでいるところより家賃が高いものの、トイレやシャワー、キッチンなどが別だという寮もあるらしく、必ずしも大学内の全ての寮の環境が悪いわけではないようです。

ここまで長々と寮に関する不満について書いてきてしまいましたが、何が言いたいかという、以上のような留学先の生活状況については実際に来てみないと分からない、ということです。当たり前のことですが、今回改めてそのことを強く感じました。ウェブサイト等で寮の設備について確認してきていましたが、サイトには良いことしか書いてありません。実際に寮に来て、予想していたものと違う、ということが多々ありました。また寮での人付き合いに関しては、その人自身の性格や他の住民との相性などもあるため、それこそ入寮日当日になってみないと分かりません。このようなことを渡航前に全て予想をつけておくことは不可能だと思います。その反面、渡航後に新たにたくさんの選択肢が見えてくることも確かです。私のように他のシェアハウスに入ることを検討するなど、渡航前には考えもつかなかったことが現実味を帯びてくることもあります。ですので、全ての不安を今すぐ解消させよう、といったような完璧主義にはあまりなりすぎないことも重要なことと思うようになりました。長期留学をする上で、何一つ困ることが無いということは無いはずだと自分に言い聞かせて 3 月からの授業も頑張っていこうと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/03/01～2019/03/31)

1. 勉学の状況

3月から授業が始まり、授業の内容はどれも興味深いものばかりなのですが、日本にいた頃とは比べ物にならないくらい予習と復習に毎日が忙しいです。私は人権論、社会学入門、犯罪学入門の3つのUnit（モナシュ大学での授業の単位）を履修しているのですが、その3つとも、毎週たくさん読み物の課題が出ます。そして授業で扱われる話では、当たり前ですが、専門的な用語がたくさん飛び交うので、日常会話程度の英語では全く歯が立ちません。Tutorialで一度、ネイティブの学生同士で話が始まってしまうと、会話の速度が速すぎて飛び入ることができないことが多々あります。また、英語力の問題とはまた別に、すぐに自分の意見を頭の中でまとめて発表する、というディスカッションの過程で、自分の発想力の無さを実感させられます。とりあえず今は与えられている読み物の課題をこなすことで知識を蓄え、話についていけるようにすることで精一杯です。ただ、自分が発言できるチャンスも確かにあるので、それをしっかり逃さないように予習をしっかりしています。

先月の報告書で触れたように、授業1つ毎に毎週、講義形式のLectureが1時間、ディスカッション形式のTutorialが1時間あります。Tutorialは必ず出席しなければいけません、Lectureは実際に出席するかどうかは自由です。Lectureはインターネット上でライブ中継が行われているので、例えば体調がすぐれない時は寮の部屋から講義を聞くことができますし、授業が終わった後も内容が録画されているので何度も復習に使うことが可能です。このシステムはとても便利なので、頻繁に利用させてもらっています。前もって授業の範囲になっている教科書のページを読んでから授業に臨むようにしているので、それで授業の内容は大体把握できるのですが、それでも先生たちが言っている内容を全て把握できるまでには至っていないので、記録されているビデオを繰り返し観て、その週の内容を理解するようにしています。

そして以上のクラスに加え、私は韓国語を学ぶワークショップにも通っています。これはMonash Student Associationという学生団体が行なっているもので、講師もその団体からボランティアで参加している学生の方々です。通常の授業に比べ、ゆっくりと言語を学ぶクラスなので、毎週緊張感無く、とても楽しく参加しています。韓国語の他にも日本語など様々な言語のクラスがあります。私がいる韓国語のクラスの受講者のほとんどは初めて韓国語を学ぶ人ばかりです。このクラスでは仲の良い友達もでき、クラスが終わった後に一緒に昼ご飯を食べに行ったり、休日に町の中心部に出かけたりしています。通常の授業が忙しく、千葉大学にいた時のように第三言語、第四言語の学習が思ったように進まないですが、無理のない範囲でこれからも進めていけたらと考えています。

2. 生活の状況

先月の報告書では入居している寮についての不満をたくさん書いてしまいましたが、寮に住んでいる他の友達や、キャンパス外に住んでいる友達の話を知っているうちに、寮には寮なりの良い点、悪い点があることに気がついたので今回はそれらについて書いていこうと思います。

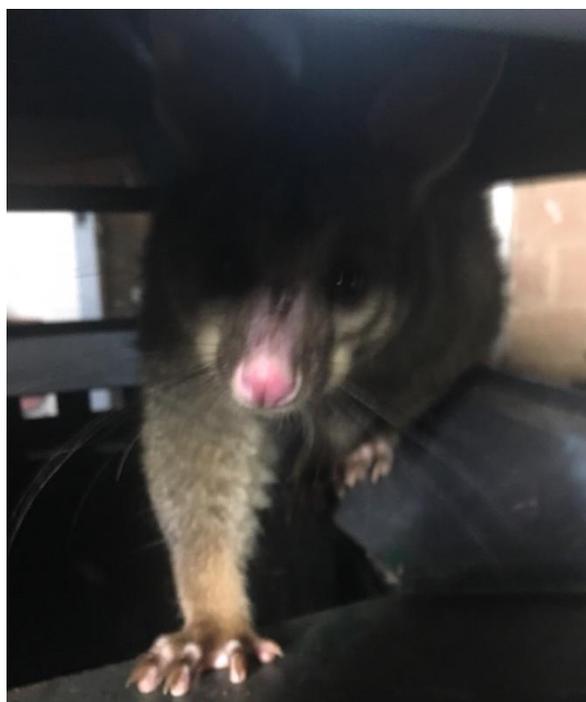
私は行ったことがないのですが、キャンパスの周りにはバーやクラブがいくつかあるそうです。勉強の合間の気晴らしのためにそこを訪れる学生は多いそうなのですが、やはり一人で行くのは不安だということで同じ寮の人たちと一緒にいき、そして一緒に帰る、ということをするようです。そのようなところで寮でのコミュニティが便利だそうです。一人でバーやクラブに取り残されることもないので、安心だと友達は言っていました。そしてそのようなコミュニティもあるということから、新しく仲良くできる友達も増やしやすそうです。

また、食生活の面で助け合いをすることができるのも寮の良いところだと聞きました。あらかじめ仲の良い友達同士でグループを組んでおき、曜日毎に担当を決めておいて、自分の担当の時には他のメンバーの分の食事と一緒に作っておき、それ以外の曜日には他のメンバーが作った食事を食べる、ということを寮に住んでいる一部の人はやっているそうです。授業が忙しくて食事を作る時間が無い、という学生にとってはとてもありがたいシステムです。また、ベジタリアンやヴィーガン同士でグループを組んでおけば、自身の信条に合った食生活を効率的に送ることができるようです。日本と比べて、メルボルンはより多くの場所でそのような信条を持った人に対しての選択肢が用意されているように感じますが、ベジタリアンの友人曰く、そうは言っても全ての場面においた必ずそうであるわけでは無いようです。そのため、同じ信条を持った友達同士でクッキンググループを組んでおいて、料理を作り合う、という機会はとても役に立つそうです。

そして何よりの利点は、大学構内にあるという立地条件です。街灯がほとんどない住宅街に比べ、大学構内は夜遅くまで明るく、人通りもあります。外食等の用事で帰宅が夜になった場合、バスを降りてから、真っ暗な住宅街を一人で歩いて行くのはやはり心細いです。携帯電話等で明かりを照らしながら進まないは何も見えないほどに真っ暗なので、大学外に住んでいる友達はUberで家の前まで帰宅するようにしているそうですが、そうすると費用がかさんでしまうそうです。それに比べ大学の寮までの道は比較的安心で、またすぐ近くにバス停がいくつもあるので、実際に歩く距離もそこまでありません。この利点は大学外に住んでいる友達に聞くまで気がつかないものでした。

ただ、以上のような利点があっても、やはり不便な点が存在することも事実です。例えば、冒頭に述べたバーやクラブの件についてですが、夜遅くに帰ってくる入居者もいることから、深夜に酔っ払って大声で話したり歌ったりする人もいます。勿論、全員がそういう人ではないことは重々承知しているのですが、夜遅くに誰かが騒いでいる声で起こされるたびに「こんな寮いつか絶対に出て行ってやる！」と思います。寮のアシスタントの人に相談したり、時には自分から直接騒いでいる人たちのところに行って注意したりしていますが、中々改善されません。それに比べ、閑静な住宅街にあるシェアハウスに入居していると、周りにバーやクラブが少ないことから

そもそもそこに行く人が近くにおらず、深夜に騒がれるということはほとんど無いようです。バーやクラブに行きたい、という人にとっては不便かもしれませんが、私はそのような場所に全く興味が無いので、むしろその方が静かで助かります。私の認識としては、寮はあくまでただの拠点で、誰かと一緒に騒いだり仲良くしたりする場所というよりは、落ち着いて休んだり勉強をしたりしていたい場所なので、寮は自分の性格や考えにあまり合っていないのだと思います。ですが、寮に入居したことで仲良くなった友達がいることも事実です。その人たちと一緒にお昼ご飯を食べたり、おしゃべりをしたりすることはとても楽しいので、寮に入居したことを完全に後悔しているわけではありません。また、先に述べた立地的な好条件があることも私としてはありがたいと思っています。まだ前期終了まで時間があるので、色々な人と相談しながら、住居に関してはゆっくり考えていこうと思っています。



寮の共同ゴミ捨て場に現れた野生のポッサム

先述のものに加え、

大学外の住居と違いゴミ収集日がないためゴミをいつでも捨てられるという利点もありますが、このような野生動物が夜な夜なゴミを荒らしにきてしまうという欠点もあります

さて、話は変わりますが、モナシュ大学のあるヴィクトリア州では、交通機関を利用するときに必ず **myki カード** という IC カードが必要になります。利用の仕方は日本の Suica や PASUMO と同じで、予めお金を払ってカードにチャージをしておき、利用時にバスの入り口や駅の入りにある機械にタッチして乗車する、というものです。日本のものと少し違うのは、購入時に個人情報のやりとりが不要で、大学内の売店など様々なところでカードを容易に買うことができるということです。ですので、カードを何枚も持っていて、誰か持っていない、あるいは失くしてしまったという人に自分の余りのカードをあげてしまう、という人もよく見かけます。この myki カードが無いとヴィクトリア州の公共交通機関は利用できないようなので、いつでも欠かさず持っておく必要があります。そして交換留学生である私はありがたいことに、正規学生同様、タッチするたびに差し引かれる金額が半分になる学割専用の myki カードを利用することができます。車の免許証を持っていない人は特にバスや電車を利用することが当たり前になるので、このような制度は非常に便利です。



myki カード

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/04/01～2019/04/30)

1. 勉学の状況

4月の半ばに前期の授業の半分が終わり、既に折り返し地点を過ぎたと思うと時の流れを早く感じます。また千葉大学の方でも授業が始まり、先月よりもさらに忙しくなりました。私が所属している国際教養学部では3年次から、学生の専攻したい分野によって**メジャー**というグループに分けられ、個人のそれぞれの興味分野に焦点をあてた学習を行う**メジャープロジェクト**という授業が始まります。この授業は3年次から4年次にかけて行われる必修科目であるため、卒業するためには必ず履修しなければなりません。そのためこちらの授業では、学部が学生たちの留学を推奨していることもあり、留学中の学生でもスカイプ等での遠隔参加が可能です。私が所属しているクラスでも担当教員の先生のご協力のもと、毎週スカイプで授業に参加させてもらっています。このようにして学部によっては留学中の学生も卒業単位取得のための対応をしてもらえる場合があるので、これから留学を考えている方は今後の学習計画も含め、一度学務係に相談に行かれることを強くお勧めします。

一方モナシュ大学の方では、授業に慣れてきたことから以前より内容の理解にそこまで時間がかからなくなるようになりました。しかしその反面、やはり自身の英語の拙さにストレスを感じることが多いです。ただ自分の言いたいことを言ったり聞いたりする日常会話においてはあまり苦痛を感じることはないのですが、授業の議論においては、①相手の話す英語を理解する②その内容を踏まえて自身の考えを整理する③自身の考えを英語で話す、の3つのことをほぼ同時に行わなければならないので、ものすごい労力を使いますし、ほとんど毎回上手くいきません。また、ほんの一部の人に言えることなのですが、私がほとんど話し合いに参加できていないと分かるや否や、私にだけパソコンの画面を見せてくれないなど、あからさまな冷たい態度をとってくる学生もたまにいて、その度にとても落ち込みます。分け隔てなく接してくれる学生もいるだけに、そのような人の行動の冷たさに余計傷つきます。勿論腹が立って、何か言ってやろうと思っても、何と言って良いか分からないし、言ったところで話し合いに十分に参加できない自分の状況は変わらないし、と結局何もできないまま一人で考え込んで、ずっと落ち込んでいる状況が続く時もあります。

さて、授業の内容もかなり進み、3月下旬から4月にかけて小課題としてレポート等を提出する機会が度々ありました。自身の今までの人生を社会との関わり合いを踏まえた上で振り返りその内容をレポートにまとめるという社会学の課題や、人権学の授業では拷問の是非について自身の意見を表現した **meme(ミーム)**という、いわゆるインターネット上に出回っているネタ画像)のようなものを作成した上で目的論と義務論の両者の立場から論じるという少し変わった課題もありました。これらの課題は全て Moodle で提出するのですが、千葉大の時と少し違うのが、

全ての提出課題においてチューターの採点結果とコメントが必ず返ってくるというところです。点数は 100 点満点の内の何点、という形ではっきりつけられるので、採点結果を見るときにはとても緊張します。先に挙げた 2 つの課題はそれぞれの授業で初めての提出課題だったのですが、結果は可もなく不可もなく、という感じでした。褒められたところもあったのですが、修正が必要なところもたくさんある、という印象です。ただ、この 2 つの課題の採点結果に共通して言えるのが、やはり私の拙い英語が足を引っ張っている、ということです。どちらの授業のチューターにも、英文法についての指摘を受け、点数の内訳が見られる課題の方では文法でかなり低いグレードがつけられていたことが分かりました。ディスカッションでもそうでしたが、「英語は日本にいるときに沢山練習してきたのになあ」と、とても落ち込みます。とはいえ、早いことに 5 月いっぱいまで前期の授業は終わってしまうので、もう少し自分なりに頑張ってみようかと思えます。また、それぞれの授業の評価の大部分を占める本レポートの提出も 5 月中にあるので、3 月 4 月よりももっと忙しくなりそうですが、それらが終わればやっと一息つけそうなので、精一杯取り組もうと思えます。

2. 生活の状況

日本と季節が真逆のオーストラリアは 4 月から秋に差し掛かり、特に朝晩は肌寒い日が続いています。今年、日本では超大型 GW が話題になっていたと思うのですが、モナシュ大学では前期と後期それぞれの中に 1 週間超の休み (Mid-semester break) があるため、こちらでも日本よりは 1 週間ほど早いですが、同じくらい長い休みを取ることができました。そして、前期での中間休みは時期的にイースター休みという感じで、日によっては街に出ても多くの店が休業してしまっていて都心の大通りが閑散としていたのが、大勢の買い物客や観光客で賑わう日本の大型連休と対照的で驚きました。そうは言ってもポツポツと開いているおしゃれなカフェには行列ができていて、人はいるところにいるのだな、という感じでした。イースターというイベントは日本にいるときは全然意識したことがなかったので、詳しいこともよく分かっていないのですが、こんなにも影響力があるものなのだなあと思いました。ただ、休み中や休み明けまでに終わらせなければならない課題がいくつかあったので、それをこなすべく、私はほとんど寮にこもっていました。早く前期の授業もテストも終えて、すっきりした上で遊びたいなあ、と思えます。



Mid-semester break 中に乗った機関車 Puffing Billy

話は変わりますが、以前から寮の関係者に相談している夜の騒音問題について、完全な解決は無理そうなのが最近のストレスとしてあり、たまに困っています。アシスタントの人だけでなく寮の職員にメールを送り、もっと具体的な対策で騒音を防ぐことはできないのか、と訴えましたが、どこの誰が騒いでいるのが正確に分からない限り注意することができないので、もしうるさいことがあったらそちらから寮のセキュリティに電話してその場で注意してもらうように言ってくれ、それか自分で耳栓でもしてくれ、といったような答えしか返ってきませんでした。長時間騒いでいるわけではないので、別の建物にいるセキュリティを呼んだところで間に合わないのでは有効な解決策でもありません。騒ぎが続く時間が短いとしても、深夜に騒がれるたびに眠りを妨げられたりイライラしたりするので、やはり未然に防げるような対策を打ってほしいのが本音です。一度その職員の言う通り本当にセキュリティに通報しましたが、寮の定間に合いませんでした。どうして寮の人達はこんな対応しかしてくれないのだろう、と少し愚痴をこぼすと、セキュリティの方も同じように、騒いでいる人の特定ができない限りこちらも動けないのが現状だ、と話していました(夜遅くにわざわざ駆けつけてくださったセキュリティの方は苛立った態度も見せず親身になって私の話を聞いてくださって、とても申し訳なかったです)。私の他にも同じように騒音をどうにかしてくれと職員に相談している友達がいるのですが、やはり同じような回答しか返って来ず、もう解決は諦めていると言っていました。その子は以前からこの寮に住んでいるようで、去年はこんなにうるさくなかったようで、今年はこの状況が異常なのだそうです。以上の状況を踏まえて、またアシスタントの方に相談してみたところ、何か具体的な対策を打ち出すことはできないか職員の方にもう一度掛け合ってみるよ、と言ってくれましたが、結局どうなったかがこちらではまだ分かりません。なんだかこんなに必死になって怒っているのも自分で馬鹿らしくなってきており、共同生活なのだからある程度の妥協はした方が良いのかもと思うこともあります。声を上げないことでこの状況に満足していると思われるのは嫌だと言う気持ちがあるので、もはや意地の問題です。疲れます。



大手スーパーcolesのブランド商品
このcolesの赤いマークがある商品は大体安い

なんだかんだで今回の報告書の内容のほとんどが愚痴で終わってしまうのは良くないと思うので、最後に私がよく行くスーパーの話を書いておきます。今後、少なくともモナシュ大学に留学をされる方は必ず訪れると思うので、参考情報として受け取っていただければ幸いです。オーストラリアの大手スーパーマーケットと言えば **Woolworth** か **coles** の2つになるそうなのですが、私はよく後者の coles に行きます。渡航後にたまたま最初に訪れたスーパーマーケットが coles だったというだけで、特に理由は無いのですが、Woolworth の方にはまだ行ったことが無いので今回は coles のことだけを書いていきます。大学の近くでも市街でもどこでも見かけるほど店舗数が多いスーパーマーケットなのですが、その一つ一つの店舗がとても大きく、取り扱っている品数も豊富なので、食材や衛生用品くらいだったら何でも coles で揃えることができるのでとても便利です。また、より出費を抑えるために、私はよく coles ブランドの品物を選んで買うようにしています。洗剤やお菓子、調味料など、だいたいどんな商品でも coles ブランドが用意されており、他の企業の品物よりも安いものがほとんどです。オーストラリアといえばティムタムというお菓子が有名だと思うのですが、その coles ブランド版も隣においてある、というような感じです。会計は有人レジとセルフレジを選ぶことができ、どこの店でも並ぶことなくスムーズに会計を済ませられることがほとんどです。店の雰囲気やシステムとして、西千葉駅前にある西友を想像してもらえれば分かりやすいかと思います。日本での買い物とのギャップに驚くことも無かったので、あまり苦労したことはありません。ただ一つ気をつけることがあるとすれば、これはオーストラリアのどこの店にも言えることなのですが、マイバッグを持参していないと有料の買い物バッグを購入することになるということです。時々無料でレジ袋が貰える店も見かけますが、基本的には買い物袋は有料です。といっても、買い物袋の値段もそこまで高いものではなく、また丈夫で何度も使えたり、デザインが施されたものも多く見かけるので、一度くらいだったら購入しても損をすることはないかなと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/05/01～2019/05/31)

1. 勉学の状況

5月は前期の授業期間の最終月だったので、とにかく課題に追われた1ヶ月でした。今期私が履修していた授業は3つだけだったのですが、その3つともでエッセイの課題が出されました。それぞれ授業内で大きなテーマが提示され、そのテーマに対して直接「はい」か「いいえ」で答えた上でその理由を連ねていくものから、その大きなテーマに沿って各自でさらに細かなテーマを設定した上で書くものまでありました。ただ、それぞれの授業で出されるテーマの範囲の広さにはばらつきがあり、ものによっては自身の興味分野に全く被らないものもあったので、そのエッセイに取り組むときが一番大変でした。ただ、今期の授業は大学に入学して初めて1年生が受講する授業ばかりだったので、エッセイ本稿に取り掛かる前にエッセイのアウトラインを添削してもらう時間がどの授業にもあったので、そこでアドバイスを貰った上で課題に取りかかることができたので、とても助かりました。一方で、エッセイによっては引用する参考文献の最低数が決まっているものもあり、資料探しにとっても苦労しました。大学の図書館のホームページで簡単に文献を探ことができ、さらに学生用アカウントでログインすればほとんどの資料が学内外問わずどこでもインターネット上で閲覧できるのは便利だったのですが、どんな単語で検索すれば自分が求めている文献を見つけられるのかが分からないなど、やはりここでも英語だからこそ感じる困難がありました。そんな時は、現地の友人に事情を説明して、自分が書いているエッセイの内容や求めている資料についての詳細を教えた上で、どのように資料を探した方が良いか相談しながら、文献探しを進めていきました。そんな友人の助けもあって、無事3つ全てのエッセイを締め切り前に提出することができ、今はホッとしています。授業も全て終わったので、あとは6月末にあるテストに向けての復習に専念するだけです。

5月で全ての授業が終わったのですが、今回は前期の授業全体を振り返って思ったことを書いていこうと思います。第一に反省したことは、何か困っていても素直に周りに助けを求めなかったことや、他の学生たちとの相互的なやりとりができなかったことです。一番大きかったのは英語のやりとりで感じる苦勞で、相手が先生でも学生でも、イマイチ言っていることが分からないな、と思っても早合点をして話を終わらせてしまうことがよくありました。そのせいであまり深いところまで議論をすることができなかつたり、こちらに聞きたいことがあっても聞けずじまいであったりなど、悪いことばかりでした。しかし、「そんなことも分からないの?」と思われることを恐れ、無駄に意地を張って誰にも頼らずに自分だけで解決しようとしている自分の気持ちとの折り合いをつけることも難しく、遅すぎるのですが、正直に助けを求められるようになったのは今月になってやっとのことでした。ありがたいことに、こちらが素直に助けを求めれば、全員とは言わずとも、ほとんどの人が助けてくれました。例えば、エッセイのアウトラインのピア

レビューでは、本来であれば口頭で自分のアウトラインの内容を紹介し、口頭でアドバイスをもらう、という形式だったのですが、自分はアウトラインを紙に印刷して持って行き、英語が下手な自分が口頭で説明しては時間がかかりすぎてしまうのでこの紙を読んでアドバイスが欲しい、とグループの人に正直に伝えました。すると、グループのみんなは紙に目を通し、ゆっくりとした口調でアドバイスをくれました。そのあと先生がグループを見て回っているときに私のアウトラインにもアドバイスをくれたのですが、先生の行っている内容が分からず私がパニックになってしまった時も、グループのうちの一人が私にその内容を書き取っておいたメモを渡してくれて、なんとかそのアドバイスを自分のエッセイに生かすことができました。この時は助けてもらって嬉しい気持ちも勿論あったのですが、逆に自分がその子たちのために何もできなかったことが悔しくて、しばらく落ち込んでいました。ただこの経験が、私が初めてちゃんと周りに助けを求め、そして周りの人たちがそれに答えてくれたものだったので、自分の心を整理できる一つのきっかけになりました。一時期、何度か続けて授業内などで嫌なことが続いて精神的にきつい時もありましたが、助けてくれる人は必ずどこかにいるのだなと思い直しました。そして、その人たちに気がついてもらうためには、自分から声を上げることも時には必要なのだと痛感しました。次のセメスターでは、自分で解決できることは自分で対処しつつ、時には頼りっきりにならない程度に周りに助けを求めながら、そして自分も誰かの助けになりながら、学習を進めていければ、と考えています。



勉強の合間に市街で食べたうどん ちゃんと日本の出汁の味で美味しかった
横にあるのはカニクリームコロッケと椎茸の天ぷら

2. 生活の状況

先述の通り、今月は課題に追われて忙しかったこともあり、中旬にとうとう体調を崩してしまいました。時々授業も休んでしまい（その時点で出席日数は既に足りていたのに単位取得に影響は出ないものでしたが）、体調がすぐれない中で締め切りギリギリまでエッセイに取り組む、という辛い日が続いていました。ベッドから動けない日もあり、食料が尽きかけた日には「死ぬかもな」と本気で思いました。恐らく原因は単純に食生活の乱れで、元々食にそこまで興味が無く、日本にいた時から不摂生な生活を送っていたところに心当たりがありました。体調が回復してからは、食生活により気を使うようにしています。心身共に健康でいることの大切さを改めて痛

感じました。

また体調を崩したことに加え、寮の騒音も大きなストレスの一つです。もうこれに関しては誰に相談しても無駄だということが分かりました。エッセイの締め切りに追われていてかなり疲れが溜まっているにも関わらず、真下の部屋に住人が夜遅くに騒ぎ出して眠れなかったり、廊下で他の住人が大声でおしゃべりをしていたりして、その騒音のせいで眠いのにも眠れず、気が狂いそうでした。職員に相談しても「うるさくなったら直接こちらに個人的に電話をしてくれ」と言いましたが、電話をしても直ちに出て対応してくれず、それから決定的な対策を取ってくれません。アシスタントの人は協力的で、私と同じように学生のため期末で忙しいにも関わらず、相談した時にはうるさくしている住人のところに行って注意をしに行ってくれましたが、その当該の住人が、注意をされた直後は静かになっても、しばらくすればまたうるさくなるので、あまり効果が無いようです。今はテスト以外の課題が全て終わり、こちらにも心の余裕が出てきましたが、次のセメスターも同じようにストレスを感じた学校生活を送りたくはないので、別の寮に移ることを考えています。希望通りに行くことは保証できないと言われましたが、一応寮の移転希望届は出し、今のところは結果待ちです。



大学構内には色々な国の料理の店がある
写真はマレーシア料理のファストフード店で買ったロティ

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/06/01～2019/06/30)

1. 勉学の状況

先月で前期の授業は全て終わり、6月はテスト月間でした。千葉大学のターム制と違い、モナシユ大学では一つの学期の中で、授業期間（約1ヶ月半）→小休暇（1週間）→授業期間（約1ヶ月半）→小休暇（1週間）→テスト期間（約1ヶ月）という順番で学習を進めます。テストの日はコース毎に指定されており、2度目の授業期間の開始後くらいに既に知らされていました。ですので、自分の分のテストさえ終わってしまえばあとは次の学期が始まるまで休みに入ります。ただどのコースでもテストがあるわけではなく、私が取っていた3つのコースの内、テストがあったのは1つだけでした。しかもテスト日が月末だったので、たった1つのテストのためだけにいつまでも休みが来ないという状況だったので常時ストレスを感じていました。

テスト形式はコース毎に異なると思うのですが、私が受けたものはパソコンを使用したものでした。テスト日の通知と共に会場、指定席の番号まで知らされており、驚くことに私は学外の競馬場の施設内でテストを受けました。キャンパスの近くだったので会場まで迷うことはありませんでしたが、到着するまで本当にそこで合っているのかとずっと不安でした。ただ、会場に着くと千葉大の時とは比べ物にならないほど多くの受験者がいたので、学外の大きな会場を確保しないと公平にテストを行えないのかなと思いました。テスト内容に関しては、幸運なことに事前に

授業内で大まかな内容を知らされていたので、解答するときにあまり慌てることはありませんでした。良い結果が出ることを祈っています。

テスト当日までの間には、先月提出したレポートの評価が返って来ていました。内容にとても自信があったものの結果があまり芳しくなかったり、一方で時間の関係で納得できるようなところまで仕上げることができなかったと反省していたものが意外に高評価だったりなど、自分の予想を良くも悪くも超えるものばかりでした。一先ず、自分にできることは全部やり切ったと思うので安心しています。ただ、前期全体を振り返って、実際に履修したものよりもこっちの方を取った方が良かったな、というコースを途中で見つけるなど、後悔することもありました。後期では前期の反省も生かし、より実りのある学習ができればと思います。

2. 生活の状況

寮での生活で感じるストレスが限界突破した一ヶ月間でした。特に大きなトラブルがあったわけではないのですが、今まで感じてきていたストレスが爆発したような感じでした。テストによるストレスもあったので、かなり辛かったです。寮長やアシスタントの方に何度も相談しているのですが、根本的な解決には至っていません。長期休暇に入った今は寮に人気が無く、夜も静かなので快適です。ですが、学期に入ったらまたうるさくなるのかと思うと悲しいです。

先月末に寮の移転希望を出したのですが、どうやら引っ越しは難しいということが分かりました。私は現在の寮の部屋の契約期間を帰国予定の12月までとして入居したのですが、その契約を破棄して別の寮の部屋に移るとなると、移った先の部屋の家賃に加え、新しく別の住人が入るまで自分が元々契約していた部屋の分の家賃も払わなくてはならないそうです。当初私は、そのペナルティが課されるのは学外に引っ越し人だけなのかと思っていたのですが、学内の寮の中で引っ越しをする人にも適用されてしまうようです。移転希望は受理されたのですが、まだ移転先の部屋が開くのを待っている状態なので、引っ越しは全く進んでいません。ただ、少なくとも私が今住んでいる寮は、後期から新しく入居を希望している人がほとんどいないようなので、引っ越しを考えている人はほぼ確実に2部屋分の家賃を払うことになる状況だそうです。もし2部屋分の家賃を払うとなると、月に20万円ほど支払わなくてはなりません。そんなことはとてもできないので、引っ越しは難しいと考えています。渡航前は寮に入ってしまうえば生活の面は一安心だと思っていましたが、案外そんなこともないようです。こちらでの勉強はとてもやりがい

あつて頑張ることができるのですが、住んでいる環境が悪いと精神的にとても追い込まれてしま
います。正直しんどいです。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/07/01 ～2019/07/31)

1. 勉学の状況

先月でモナシュ大学の方は全ての授業とテストが終わり冬休みに入ったのですが、千葉大学の方の授業はまだ続いていたので、あまり休暇という感じではありませんでした。千葉大学の授業はスカイプを通して受講しており、各自調べ学習を進めることがメインでした。そこで感じたのは、国外から多くの日本の文献にアクセスするのは難しいということです。Google Scholar や CiNii といったサイトを通して文献を集めていたのですが、日本にいた頃と比べると集められる資料の数はかなり減ってしまいました。千葉大学に所蔵されている書籍は勿論、ジャパンナレッジといった辞書・事典や新聞記事のデータベースなど、ほとんどの資料が学内アクセス限定で、とても不便でした。モナシュ大学では学生用・教員用のアカウントを持っていれば学外からでも図書館に所蔵されているほぼ全ての文献をインターネット上で閲覧・ダウンロードできるので、千葉大学もそうならば良いなと切に思いました。留学をしながら千葉大学の授業を受講したり、日本に関係する文献がたくさん必要になる人も必ずいると思うので、突如「全員留学」を目標に掲げ、「留学中でも科目履修が継続出来る教育環境整備等を行ってまいります」と公式サイトで断言しているくらいなのですから、今すぐにでも改善すべきでは？と思います。

今月の最終週からモナシュ大学の方でも後期の授業が始まりました。今期は前期の反省を生かし、早くからペースを掴めるように頑張っています。その甲斐もあってか、今のところは前期の最初ほど授業を苦痛に感じていません。ただ、今期は授業も一つレベルアップしたものを選んだので、今後の課題が厳しいのだと思います。早め早めに普段の勉強をこなして、前倒して課題の作業に入ることが理想です。



至る所にある水道ポイント

2. 生活の状況

先月まで揉めに揉めていた寮の騒音問題ですが、予想外なことに、騒音の原因だった住人達が引っ越していったようで今は静かになりました。良かったです。移転先になる部屋が空かなかったらしく移転はできませんでしたが、今のところは快適に寮で生活をする事ができています。元々同じ寮に住んでいて騒音が原因で違う寮に引っ越してしまった友人がいたのですが、彼女は4月には移転届を提出して、騒音があまりにも酷いことを寮の職員に何度も伝え、5月には引っ越しをすることができたと言っていました。私は騒音に耐えて耐えて6月の最初に届け出をしていたので、もし寮を移転したい、とすぐにでも提出した方が有利だったのかな、と思いました。ただその友人は引っ越した先の寮の環境が良いものの、家賃が高くなってしまったことが悩みだと言っていました。こればかりは運としか言いようがないですが、最初から良い環境の寮に住むことができるのがベストだと思います。

今月分はあまり留学らしい内容で埋められなさそうなので、モナシュ大学がどのような環境なのかをもう少し書いていこうと思います。私が通うキャンパスはクレイトンキャンパスというメインキャンパスで、とても広いです。渡航する前から「とても広いキャンパスだよ!」と言われていたのですが、想像の倍以上広がったです。その広いキャンパスにはいたるところに写真にあるような水飲み場が設置されています。多くの学生はこのようなところで自分の水筒に水を汲み入れて持ち歩いています。日本にいた頃は、水道水を飲み水として飲むなんて貧乏くさい、と思っていたのですが、ここまで設備がちゃんとしていてその習慣が広く普及しているのであれば、あまり違和感は無くなるのだなと思いました。おまけに飲み物代の節約にもなるので結構便利です。季節が移ってもっと暑くなれば水筒がより一層手放せなくなりそうです。またベンチや机も室内外の至る所にあり、そこで勉強している人もよく見かけます。室内であれば、近くにコンセントが設置されていることも多いので、パソコンでの勉強も問題ありません。広いキャンパスのあちこちに勉強ができるスペースが完備されているので、とてもありがたい環境です。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/08/01～2019/08/31)

1. 勉学の状況

後期の授業が始まって、早くもほぼ半分が終わってしまいました。今月の内で既にレポート課題が2つあり、毎週出されている読み物の課題との兼ね合いが難しかったです。今回も前期と同じく授業を3つ履修しているのですが、その内2つを1年生向けのものから2年生向けのものにレベルを上げたので、内容がより専門的になった分、読み物の量も2倍くらいに増えました。前期は頑張れば毎週チュートリアルが始まるまでには読み物を査読できるくらいの時間があつたのですが、今回は同じやり方では絶対に終わりません。ですので、先にレクチャーを受講した上で重要な点をいくつか把握しておいてから読み物に目を通すなどの工夫をしています。毎週の小テストの範囲内のものや、レポート課題にあつた Review article(既存の論文を読んで批評文を書く)のテーマになる論文等は査読をしないと厳しいのでそのようなものにはなるべく長く時間を割き、それ以外のはスキミングで内容をざっと把握するようにしています。ただ、私は以前からスキミングがずっと苦手だったので、読み始めるとどうしても査読になってしまい、結局直前まで休みなく読み続けてしまいます。ただダラダラ読んでいても何も変わらないので、この機会に苦手を克服し、効率的に時間を活用できればと考えています。

チュートリアルの方は、まだまだ課題があるな、と感じる毎日です。前期は右も左も分からず、

困っていても誰に助けを求めて良いか分からない状況でしたが、今期は早くから素直にチューターの先生に助けを求めることができました(笑)。どうやって手をつけたら良いか分からなかった課題の取り組み方を聞いたり、チュートリアル内でのディスカッションになるべくついていけるように前もってトピックを教えてもらえるように頼んでみたりしました。後者は、授業の直前まで先生が内容を練っているために前もって生徒に教えることが不可能だとの理由で無理でしたが、毎回授業内でホワイトボードにトピックや重要な点を箇条書きで逐一書き留めておくことで、視覚的にも分かるようにするという対策を打っていただきました。授業によってはパワーポイント等の視覚情報が無く、リスニングのみで苦戦することが多々あったので、このような対応はとてもありがたかったです。ただ、このような進歩があったものの、未だにディスカッションで積極的に発言ができないのが悩みです。前と違って話になんとかついていけるようになった分、少しずつですが意見を考える余裕もできつつあるのですが、まだまだしっかりとして意見にまとめて発信できるほどではなく、勇気を持って何か言ってみても、ちゃんとした形になっていないからあまり良い反応を得られません。その度に落ち込み、しばらく復帰することができず、辛いです。どうにか帰国までには自分で納得が行くほどの進歩ができればと思います。

2. 生活の状況

季節は真冬になりましたが、日本の冬に比べるとそこまで寒さは厳しくなく、晴れた日にはポカポカとしていて快適に過ごすことができます。日本にいる知り合いによると夏の暑さが厳しいようで、少し懐かしく感じるも、日本のジメジメとした夏よりもオーストラリアのさらっとした気候の方に慣れている自分もいます。

今月は生活面において特に大きな事も無かったので、前回に引き続き、私が普段過ごしているクレイトンキャンパスの環境について書いていこうと思います。今回は娯楽(?)面について書いていきます。今までの報告書の中でも触れたことはあると思うのですが、キャンパス内では様々な国の料理を楽しむことができます。以前マレーシア料理の写真を載せたかと思うのですが、他にも中国料理、ポルトガル料理、まだチャレンジしたことがないのですがお寿司を食べられるところもあります。価格帯は日本円で 1000 円前後くらいだと思うのですが、毎日 3 食をそのようなところで食べてしまうと流石にお金が無くなってしまうので食べる頻度は低いです。このようなご飯どころは主にキャンパスセンターという、名前の通りキャンパスの中心にある施設の中に集合しているのですが、その他にも図書館内や校舎内を含む至る所にコーヒーとサンドイッチといった軽食が食べられるカフェがあります。今期からはタピオカドリンクを出すお店もできて、連日お昼を過ぎると大行列ができています。

そしてキャンパス内には図書館が 3 つあるのですが、その中で一番大きな Matheson Library には映画やドラマの DVD がたくさん置かれている棚があり、英語のものだけでなく、韓国、中

国、そして日本のものもたくさん置かれています。こっちに来たら Netflix のような有料サービスを利用しないと日本の映像作品は見られないと思っていたのでとてもありがたかったです。おいてある作品にはコメディからシリアスなものまであり、チョイスの基準が未だによく分からないのですが、今まで観たことのある作品ばかりだったので有名作品がぎっしりと置かれている印象です。しかし、鑑賞するにあたっては、持っている DVD プレイヤーと図書館から借りた DVD のリージョンコードが一致していないと視聴することができない、という難点があります。私が日本から持ってきた DVD プレイヤーは日本発の DVD を見る時にはリージョンコードが合致しているので問題がないのですが、海外で発売された DVD だと内容が日本の作品でもリージョンコードが一致していないと視聴することができません。DVD プレイヤーの方のリージョンコードを変えることで解決することはできるのですが、コードの変更回数が限られているので、帰国する時に日本のリージョンコードになっていないと後が大変になってしまいます。こういうことを考えるとやっぱり有料サービスを利用したほうがよいのかな、と思うこともありますが、勉強にかなり時間を取られているので、月額料金の元を取れるほど観られないことから入るのをためらってしまい、結局、図書館の DVD をたまに観るようにしています。

このように、学内には意外にも娯楽があるのですが、それを楽しむにはやはりお金と時間が必要なので、そこまで贅沢できないのが現状です。すでに半年以上滞在したことでこのようなことが当たり前になってしまい、報告書に書くほどの内容なのかもよく分からないのですが、千葉大学ではあまり馴染みのない光景かな、と思い、今月はこのような内容にしてみました。



最近学内にできたお店のタピオカドリンク
開店してすぐの午前中はあまり並んでいません



右のDVDは日本製だったので問題なくDVDプレイヤーに読み込まれましたが、

左のものは日本作品にも関わらず海外製だったのでリージョンコードの変更が必要でした

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/09/01～2019/09/30)

1. 勉学の状況

今月は大きめのレポートを2つも出さなければならなかったのも、とても忙しい1カ月でした。毎週出される大量の読み物の課題をこなす一方でレポートの執筆もしなければならなかったのに、全部をやりきるのには時間が足らず、今回初めて、学部独自(?)の“2-day-extension”という制度を利用しました。この制度を利用すると、病欠などの特別な理由が無くても課題の締め切りを2日分伸ばすことができます。レポートをはじめとする課題は、提出が締め切りに遅れると遅れた日数分だけ点数を下げられてしまい、単位取得がかなり難しくなっています。そのため、どうしてもさらなる作業時間が必要となるレポートなどの大きな課題で、この制度を利用する生徒は多いようです。前期でもこの制度は利用できたのですが、当時はそこまで切羽詰まった状況でもなかったので一度も使いませんでした。しかし、対象学年が一つ上がったクラスを取るようになってより多くの課題に追われるようになった後期では、この制度がとても助けになりました。申請方法は簡単で、自分を担当してくれているチューター教員、もしくはその授業に所属しているチューター達のリーダーであるヘッドチューターなどに「2-day-extensionを申請したい」という旨のメールを送るだけです。ただし、申請することができるのは本来の締め切りの2日前（休業日は含まれない）まででした。申請が通ると、Moodle上の提出期限日も先延ばしされたものが表示されるようになります。授業によっては申請をせずとも自動的に締め切りが先延ばしにされているところもありました（実質、その制度が採用されているというよりは、予めその2日後の締め切りで固定されているというような感じでした）。この制度はどの課題に取り入れられているわけではなく、Moodle上の小テストといったそこまで負担が大きくないものや、授業期間終了日が締め切りとなっている課題などは、対象外であることも多々あります。利用する前は「そんな2日分伸ばしたところで負担は変わらないだろう」と高を括っていましたが、本当に忙しい時ほど、その2日間がとてもありがたいものでした。

今月も、ディスカッションではあまり思ったようにいかないことの方が圧倒的に多かったです。前期も感じたことですが、相互的なやりとりというよりは、私が一方的に助けられているような感じでした。例えばオーストラリア独自の法律といった、現地に長く住んでいる人にとっては常識的なものでも海外から来た私にとってはあまり馴染みのない話題が上がった時には特に困惑してしまいます。そういう時に地元出身の学生が分かりやすく内容を噛み砕いて説明してくれるときもあったのですが、そうなってしまうと結局私への説明でその時間が終わってしまい、なんだか申し訳ない気持ちになります（50分間のチュートリアルも長いようでいざ過ごしてみるとすぐに終わってしまいます）。もうちょっとなんとかならないものかな、と自分でも考えてみるも、手詰まりな感じです。日常会話であまり困ることが無くなってきた分、余計悔しく感じます。



日本では見たことない白黒のカラスみたいな鳥がそこら中に沢山います

2. 生活の状況

帰国日まであと 2 ヶ月ほどになったので、そろそろ出発の準備について考えるようになってきました。こちらで色々なものを購入しているので、全部を持ち帰るわけではないにせよ、行きよりも荷物の量が多くなっているのは確かです。国際郵便を利用して日本の家に荷物を送ってもらうことも考えているのですが、それとは別に荷物を詰めたスーツケースを 2 つ飛行機に持ち込むことにしました。行きの飛行機ではスーツケースは 1 つしか持ち込めなかったのですが（そこに荷物を詰め込み過ぎて重量オーバーして超過料金を取られました）、航空会社の違う帰りの飛行機では 2 個まで無料で持ち込めるようです。新しくスーツケースを買うことになるので、持ち込み無料とはいえ、国際郵便よりもかえってお金がかかってしまうのかもしれませんが、出発のギリギリまで荷造りをしたい自分にとっては、色々な手配が必要になる郵便よりはこちらの方が良いかと思い、結局スーツケースを購入してしまいました。とはいえ、スーツケース 2 つをもってしても全てを持ち帰るのは難しいと思うので、今から少しずつ前期の教科書などもう使うことのないものは、全体の荷物の量を計りながらダンボール一箱分にまとめて郵便で送ってしまおうかと思っています。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/10/01～2019/10/31)

1. 勉学の状況

今月で後期の授業が全て終わりました。あとは11月の後半にテストが一つあるだけです。今までの授業期間を振り返れば思い通りにいかないことだらけだったなという感じですが、ようやく全部が終わりそうだというところで、ホッとしています。10月は3つの授業全てで大きな課題が出ていたので、今までで一番忙しく、辛い期間でした。エッセイだけでなく、オンラインプレゼンとして、簡単にいえば音声付きのスライドを作成して提出するというものもあり、慣れない作業に必要以上の時間をかけてしまうこともありました。以前も利用した締め切り延長のシステムを活用し、なんとか期限内に全ての課題を提出することができました。前期後期と通してこちらで勉強してきましたが、毎日こなすべきものが山のようにあり、「勉強しているな」という感覚がずっとありました。正直に言うと、千葉大にいた頃は、まだ1、2年生の時点でそこまですごい内容に入っていなかったということもありますが、ここまできつく感じることはほとんどありませんでした。大学に入って初めて、学習が大きく負担としてのしかかり、その分だけ何かの糧になっているのではないかな、と望み半分に思っています。今の段階だとまだ即効性のある成長感？みたいなものは無いのですが、日本に帰ってから「行って良かったな」と思えるようになりたいです。



休暇中に出かけた山の中に、鳥に餌をやるところがありました

2. 生活の状況

そろそろ夏が始まるくらいになり、30度近くにまで暑くなる日もあるのですが、時々20度近くまで下がってしまうときもあります。気温差が激しいので体調を崩しやすいです。また、着る服にも少し困ってしまいます。今夏服を買っても、冬の日本に帰った後にはしばらく着ないだろう、と、日本とは季節が逆のこちらで新しく服を買うのもためらってしまいます。

今月の初めにセメスターの中間休暇が1週間あったので、街に出かけて買い物をしたり、山間部に観光に行ったりしていました。普段はあまりできない遠出の外出ができて、とても楽しかったです。ただ、授業期間に入ってしまうと、ほとんど娯楽が無くなってしまい、しんどかったです。学期の終盤には、後期に卒業する人たちへのセレモニーが1-2週間大学全体をあげて開催されており、ちょっとしたお祭りのような状態でした。外にある大きなスクリーンでは式の様子の中継映像が流れており、式が終わるとスクリーンの前の特設会場のカフェバーに卒業生とその家族や友達が集まって出される軽食を食べながらおしゃべりをしたり、記念撮影を撮ったりしていました。今期は私の友人も卒業したので、一緒にお祝いをしに行きました。

帰国の準備に関してですが、先月はダンボールでの郵送を検討していましたが、想像していたよりも送料が嵩むようだったので、今の段階ではやめようかと考えています。ちなみに私が検討していたのは、オーストラリアの郵便局 Post の国際郵便のサービスで、ホームページで詳しい料金プランを調べることができます（プランによって重量や配送日数等が変わります）。ダンボールでの郵送としては、規定内の大きさのものであれば自分で好きなダンボールを準備して送る

ことができるようです。ダンボールを自分で用意する場合、店で購入するというよりも、スーパーで余っているものを分けてもらう方が手軽で主流なようです。テストが終わってから帰国日までは1週間くらいしか無いので、テスト勉強と並行して早め早めに準備を進めていきたいです。



カフェバーでは給仕係の人が軽食をおぼんに載せて歩いているので

そこからアイスなどを貰います

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/11/01～2019/11/30)

1. 勉学の状況

先月で授業が終わり、11月はテストが1つあるのみでした。前期から続けて履修しているクラスのものだったので、テストの形式や会場などは前期に受けたものと同じだったので、慌しい感じではありませんでした。一方で、千葉大学の方の授業には2回ほど、スカイプで参加しました。それまではモナシュ大学の授業と時間が被ってしまっていたので、レポートの提出で対応してもらっていました。



テスト会場だった競馬場

2. 生活の状況

今回は退寮・帰国準備について書いていこうと思います。まず持ち物に関して、1ヶ月かけて少しずつ整理をしていきました。余った食料・調味料や布団など現地で調達したのものに関しては、お土産を除いて基本捨ててしまいました。鍋やフライパンなどのキッチン用品は寮の方に寄付することができたので、壊れてしまったもの以外は全て監督生の方を通じて寄付しました。残りの持ち帰る荷物は全て、飛行機に持ち込める限度のスーツケース 2 個に収めて持って帰り、お土産の中には入国時に検閲が必要なものもあったので、それに当てはまるものはスーツケースに入れず、すぐに取り出せるよう席にまで持ち込めるリュックの中に入れていきました。

次に帰国当日の動きについて書いていきます。退寮に関しては、あらかじめ出発する日程を寮に知らせておき、当日の朝の 10 時には全ての荷物と一緒に撤収しなければいけませんでした。寮から空港までスーツケース 2 個を持って移動するのは無理があったので、寮の近くもまわってくれている空港行きのシャトルバスを手配し、バスのチケットは前もって乗車時刻などを指定した上でインターネットを通じて購入しました。飛行機が出発するのは深夜の 0 時ごろだったので、長い間重い荷物を持ってウロウロしているのは疲れてしまうので、退寮したらすぐにシャトルバスに乗って空港に行き、有料のサービスを利用して搭乗手続きの時間まで荷物を預けていました。手続きの時間まではご飯を食べたり、お土産を見たり、友達と電話をしたりして時間を潰していましたが、空港の中でまわれるところが意外と少なかったなので、あまり動いていませんでした。

留学最終月でしたが荷造り以外全然書くことが無かったのでこのような内容になってしまい

ました。まだ帰ってすぐでバタバタしていますが、一度帰って来てしまうと留学中のことが一瞬のこのように感じます。少しずつゆっくりでも振り返りができればと思います。



帰りの機内で出されたティムタム